P2-2　作業療法教員によるスーパービジョンの取り組み

○七谷 倫子（OT）
社会福祉法人関西中央福祉会 平成リハビリテーション専門学校

Key word：（スーパービジョン），作業療法士，卒後教育

【はじめに】理学療法士・作業療法士養成校にかかる指定規則の改正が2020年に行われる．専任教員における要件として，「専任教員は，臨床に携わるなどにより，臨床力向上に努めるものとする」としている．当校では2014年度より，所属する平成医療福祉グループ（以下，グループ）の病院・施設に対し，作業療法学科専任教員（以下，専任教員）が定期的に卒後教育を兼ねた臨床指導としてスーパービジョン（以下，SV）を実施している．こうした取り組みについて，専任教員及びSVを受けたセラピストにアンケート調査を行い，その実態と有用性について報告する．

【方法】グループに属する関西圏内の病院10施設を対象に，13名の専任教員が平均1～2回／月の頻度でSVを実施した．調査期間は2017年12月から2018年11月とし，専任教員がSVを実施したセラピストに対し，郵送調法によるアンケートを実施した．内容は，SVに対する満足度を「満足」「やや満足」「ふつう」「やや不満」「不満」の5件法で聴取し，その理由について自由記載を設けた．尚，アンケート調査については目的や方法を書面にて説明し，返信をもって同意とした．

【結果】回答したセラピスト54名のうち，経験年数5年目未満が41名を占め，SVを必要とするセラピストは経験年数の浅いセラピストが中心であった．

回答の約9割が「満足」，「やや満足」と回答し，「不満」，「やや不満」の回答はなかった．自由記載においては，具体的な指導を受け，知識・技術の向上に繋がったという意見や，評価・治療の在り方について見直すきっかけになったという意見が約67%あり，次にOTとしての視点を養うきっかけや，指導を受ける機会が増えたという意見が約28%あった．また，一方でSV頻度の増加や指導・フィードバックの時間を増やしてほしいという意見が約19%あった．

【考察】現在，OTの有資格者数はPTと比較して約70,000人（2019年2月1日時点）少ない状況であり，病院に配置されるOTの人員もPTと比較して少なく，グループにおいても理学療法士864名に対して作業療法士は330名であり，同様の問題を抱えている．また，臨床経験5年目未満の割合は，約54%と半数以上を占める（2019年2月1日時点）．回答の9割が「満足」という結果は，専任教員が定期的に臨床現場に出向き，SVを受けるセラピストの疑問や悩みを一緒に考え，評価・治療における解決策を具体的に示すことで，新たな気付きやOTとしての視点を養うきっかけづくりを担っていると考える．また，専任教員にとっては，SVが数少ない臨床力の向上を図る機会となっている．

現在，グループの関連病院は27施設あり，関西だけではなく，四国や関東にも存在する．しかし，現在の教員から訪問数を増やすことは困難であり，今後事例検討シートなどで情報を共有することや，それに対する助言や指導を行っていくことで，現在のニーズに対応して行くことが問われる．一方で，SVのため臨床に出向くには学校業務を調整する必要性があり，量的なニーズに応えていくことは学生との関わりも含め学校業務がおろそかになることにも繋がりかねない．このように，臨床の要望と本来の学校業務との折り合いをどのようにつけていくかが今後の課題と考えられる．

【まとめ】当校の取り組みであるSVは，グループ関連病院の臨床教育のニーズと合致しており，今後も継続して取り組んでいく意義が見い出された．また，教員においても2020年の指定規則改正にある「教員の臨床力向上」を具体的に実践していく手段としても意味のある取り組みであるといえる．さらに今後の検討を重ね，両者と共に有意義な取り組みとなるよう実践していきたい．